

「柏崎の水」

あげわしんでん べんけい うぶみずい ど ごぜんすい 上輪新田の弁慶の産水井戸（御膳水）

[位置] 国道8号線を柿崎に向かって笠島から芭蕉ヶ丘トンネルを抜けると、上輪新田となる。右手海に突き出た鼻にある料亭六宜閣を見ながら300メートル程行くと、国道を挟んで両脇は田畑となり、南側の田の上には、霊峰米山の山頂小屋が見える位置となる。この産水井戸は、海側の畑へ90メートル下った旧道沿いにあり、弁慶産水碑が建てられ、地面に直径40センチメートル位の井戸があり、水位は表土近い。

よなひめじんじや かめわりざか うぶみずい ちからもち1)2)3)
[胞姫神社・亀割坂・産水井・力餅] 景勝の地、
よなやまさんり しやそう よなひめじんじや
米山三里に深い木立の社叢を残している胞姫神社は、昔から安産の神として知られ、ここにお詣りする人は多い。そのいわれは、ぶんじ みなもとよしつね よりとも
文治3(1187)年源義経が兄頼朝に
おうしゅうお きた かた かめわりざか
追われて奥州落ちをする際、北の方が亀割坂付近で産
かめわかまる え
気づき、この神社に祈願して安産となり亀若丸を生み、胞
な
衣を埋めたという。

この時、義経の供をしていた弁慶が産湯を得るために杖で掘った井戸が弁慶の産水井で、ついた餅が弁慶の力餅伝説である。(「柏崎市立博物館報 2」⁴⁾に「胞姫信仰の形成と展開」と題して渡邊三四一氏が論考している。)

また、この水は、明治11年の明治天皇北陸御巡幸の際、上輪新田・田中沢造宅に小休止され、御膳水となったことから、御膳水の石柱も建てられ整備されている。



右は「明治天皇御膳水」の石柱、米山を挟んで左が碑、産水井戸は左の石穴中にある。(上輪新田95-子)現在は、飲料水としては利用されていない



田中氏は、御座所となったその建物を六宜閣と名づけて家の前に明治33年、栄光碑と題する記念碑を建てている。

ところで、民俗学者柳田国男は、伝説の対象となる目的物による分類を「日本伝説名彙」⁸⁾で具体的に示している。その分類による「水の部」は、橋・清水・井・湯・池・川・渡・堰・淵・滝・水穴を含めている。「柏崎市伝説集」には、およそ800話が収録されており、その量は他に類を見ないが、これをこの分類に当てはめた時、「水の部」に当たる伝説数は95から100話となる。

なお、「柏崎市伝説集」に取り上げられている御膳水伝説は、今号と、前号の大洲の「孫左門井戸」と、椎谷の「お茶水の井戸」の3話がある。

参考資料

- | | | | | | |
|-----------------------------------|-------------|------|-------------|-----------|------|
| 1)「柏崎市伝説集」 | 柏崎市教育委員会 | 1972 | 5)「明治天皇聖蹟誌」 | 山中樵編 中野財団 | 1924 |
| 2),7)「柏崎のいしぶみ」 | 山田良平著 | 1970 | 6)「くぬかちの記」 | 近藤芳樹著 宮内省 | 1880 |
| 3)「こどものための柏崎物語」 | 笹川芳三著 柏崎日報社 | 1960 | 8)「日本伝説名彙」 | 日本放送協会 | 1974 |
| 4)「柏崎市立博物館 館報 2」 | 柏崎市立博物館 | 1988 | | | |
| 「昔の話でありました 第1集」 深田信四郎著 柏崎週報社 1971 | | | | | |